

未分化



人は、成熟によって変わるのではない。

内側が、分けられることで、  
はじめて存在が現れる。

感情と事実、評価と不安、自己と他者。  
それらが混ざったままの状態を、人は未分化と呼ぶ。

出来事はすぐに自己へ接続され、  
世界は、輪郭を持つ前に迫ってくる。

未分化は、幼さではない。  
知性や経験の不足でもない。

高度に機能しながら、  
内側だけが分けられないまま、  
流れが閉じている状態。

分化された内側では、  
事実と感情のあいだに、直接の接続はない。

出来事は出来事として留まり、  
評価は遅れて立ち上がる。

だが未分化な構造では、  
すべてが同一線上で起きる。

出来事は即座に評価へ変換され、  
評価はそのまま自己へ落ちる。


そこで一度でも崩れると、  
以降は、すべてが同じ速度で連鎖する。

未分化は、弱さであると同時に、防衛でもある。

分けないことで、  
一貫性は保たれる。

触れないことで、  
破綻は起きない。

それは欠けているのではなく、  
かつて保たれていた構造でもある。

A vertical beam of bright light descends from the top center of the frame, illuminating a checkered floor that recedes into the distance. The floor is composed of dark and light squares, creating a strong sense of perspective. The background is a dark, hazy space with some faint, wispy light patterns. The overall mood is mysterious and dramatic.

分けられなかった内側は、  
まだ、ひとつにならない。



Edition — 存在の芯  
別景：未分化

著者：美学思想家 古川玲奈  
発行：Raffiné  
2026